

カトリック 仙台教区報

2009年3月1日 No.186
 発行
 カトリック仙台司教区
 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
 Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
 発行責任 広報委員会
 URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

小教区共同体作り

教区活性化のための研修会・講話要旨

仙台司教 マルチノ 平賀 徹夫

小教区共同体作り

「小教区共同体作り」。これが、教区活性化のための研修会の、今年度のテーマです。

キリスト信者とは、「キリスト・イエスに結ばれるため、またその死にあずかるために洗礼を受け、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きている」(ローマ6・3、11)者であるわけですが、その私たち信者は「あなたがたはキリストの体であり、また、一人ひとりはその部分です」(1コリント12・27)と聖パウロが言うように、キリストの体である教会を構成し、「小教区」という具体的な場での交わりの中で信者として生きています。

共同体

共同体という言葉はよく使われますが、広辞苑によると「血縁的・地縁的あるいは感情的なつながりを基盤とする人間の共同生活の様式。共同ゆえの相互扶助と相互規制とがある」と説明されています。教会共同体あるいは小教区共同体にも、血縁すなわち家族や親戚といった互いのつながりのある間柄の人もいますし、地縁すなわ

ち同じあるいは近くの地域に住んでいる信者同士だという関わりがあるとも言えるでしょう。しかし、家族や親類の中で一人だけ信者という人も少なくないし、また特に



四ツ家教会で講演する平賀司教

昔からキリスト教的要素がない土地柄だという社会的環境にあつては、一人ひとりの信者にとって地縁などというものは、逆に重い十字架のように感じられることもあるのではないでしょう。

信仰共同体

そんな中であつて私たち信者は「教会共同体」を形作るように呼ばれた者たちである、というわけです。そこでの第一のあるいは唯一で絶対の要素として挙げられなければならない互いのつながりは「信仰」でしょう。きれいな表現をすれば、その中心にキリストがおられる教会共同体は「キリストによる救いを信じる生き生きとした信仰と、希望と、愛によって結ばれている人々の交わり。洗礼によって神の子・光の子としていただいた者たちの信仰共同体」です。集う人々はだれもが温かさを感じ、受け入れられ、理解され、認められ、支えられていると確信できる思いやりのある共同体です。だれにとつても「自分はここにいて良い」「自分も話して良い・聞いてもらえる」という場です。キリストによる救いを共に祝い、共に祈り、問題を抱える人々のために支援し合うなどの奉仕を通して信仰を証しする共同体です。

信仰共同体を体験したい

昨年度までのテーマは、「自分は(教会のために)何ができるか・するか」と、「自分たちは共に何ができるだろうか」を挙げてきました。その延長として今年度ははっきりと、小教区共同体作りを目指そう、ということとテーマが設定されました。「信者が集まって顔を合わせ、話し合う・聞き合う・分かち合う、

そのこと自体が、我々は教会である・共同体であるということの体験となる。実際にそれを体験しよう」ということです。

話し合いのポイント

『キリスト者小共同体 ―21世紀への希望の展望―』という本があります(菊地功訳、2002年 新世社 NICE選書)。非常に参考になる本として、その中に共同体の本質的要素として5つ挙げられています(p. 166)。(1)分かち合い、(2)学びあい、(3)支え合い、(4)派遣の使命(宣教)、(5)祈り、です。研修会では、この中から特に、祈り、学びあい、支え合い、について話し合つてみたら良いかなと思います。第一に祈りです。私たちは、聖書を本当に「神の言葉」として読み、味わい、受けとめますが、祈りは絶対欠かせません。私たちが神の子・光の子として使命を果たしながら生きるには神の恩恵が絶対必要だからです。「あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」とイエスのお言葉があります。そして、私たちの生き方はどの程度まで「キリスト中心」となっているのでしょうか。第二に学びあいです。「体は一つの部分ではなく多くの部分から成っています。…多くの部分があつても一つの体なので。…頭が足に向かって、お前へ



いのちを守るための緊急アピール

司教 マルチノ平賀徹夫

日本カトリック司教協議会・社会司教委員会は

1月13日付で、表題のアピールを発表しました。呼び

かけの対象を、日本のカトリック教会の皆様へ、としています。多くの人のいのちにかかわる、極めて重大な、それも大変な緊急性を帯びた問題が起こっている。この現実の中にあつて、いのちを守る働きのために力を貸してください、という呼びかけです。

世界的な経済危機と言われる中で、日本でも大会社・大工場で何千人という単位での従業員の解雇が予定されている、などというニーズが後を絶ちません。大会社・大工場の下には中小や個人の企業があり、そこはきっと、もっと苦しいでしょう。労働者の中で真っ先に雇用停止とされるのは非正規社員といわれる方たちです。特に、「派遣社員」や外国人労働者たちが、人としてではなく機械の部品のように都合よく切り捨てられるという世相です。当然、収入は絶たれ、住居も失い、外国の方たちは母国に帰るにもその費用もない、そのような人々が残っていくという状況となっています。

人として一人ひとりを大切にする、ということを実際に考えていると思います。「そのためにわたしたちは、貧しく弱い立場に追いやり、大切な人間関係を絶たれてしまっている人々、人間らしい生活がなわれ、あるいはいじめられている人々の側に立つて、この世界を見ていかなければなりません(2008年12月10日、日本司教団の人々へのメッセージから)」ということに、実際に踏み込んで行きたいと思っています。

誰にでもすぐできることは、支援活動への募金援助でしょう。カトリック教会としてはカリタスジャパンが、普段の生活を支えるものともせず、常にこのための呼びかけもしていますし、教会の聖堂前に募金を置いて応えているところもあります。このほかにも、路上生活を余儀なくされている人々への食料や生活必需品の提供などの支援、緊急避難所の提供など続けている団体への協力、あるいはまた、行政機関も実効ある動きを起こしてくれるように働きかけるなどの連帯は、可能でしょうか。

「どうかすべてのカトリック信者が、祈り、献金、活動など、どのような形であれ、いのちを守るための働きに参加してくださいませよう、切にお願い申し上げます」。これがこの緊急アピールの結びの言葉です。

「『教会憲章』1番の教義が真実であることを具体的に形がら進んでいきたいです。私たちが分かったことが、この交わりと一致の中心はキリストです。一人ひとりが、一人ひとりの木であるイエスに、枝としてしっかりとつながっている必要があります。そのとき、イエスご自身が、わたしたちと共に働いてくださいます。」

私たちは要らない、とも言えませんが、それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです」と聖パウロは書いています(1コリ12)。ここから何を学んでいるでしょうか。一人ひとりが違うからこそ互いを必要としているはずなのに、分裂や排除などはないでしょうか。あるとすればどのように克服できるのでしょうか。第三に支え合いです。「福音的価値がしばしば嘲笑の的になり拒絶されるような社会においては、信じるものにとつてこれらの価値を支える共同体が必要だ。」

キリスト者小共同体は福音へ忠実であるようにと励ましを与え、共同体自身とそのメンバーに、充実した本物のキリスト者としての生き方をするように呼びかける(『キリスト者小共同体』P. 170)。共同体の中で、一人ひとりがその苦悩や苦勞し



ている現実の問題など、「自由に話せる……ここに自分の居場所がある」と感じられる交わり、支え合いを体験できたら良いと思います。そうできるように心を開き合うことができるでしょうか。

信仰の真実に向かって進みたい

小教区の信仰共同体作りという目標はきつと永遠のテーマではあるでしょう。でも、私たちの信仰は、「わたしは世の終わりにある」(マタイ28・20)とのイエスの言葉に絶対の信頼を置くものです。そして、「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である」という『教会憲章』1番の教義が真実であることを具体的に形がら進んでいきたいです。私たちが分かったことが、この交わりと一致の中心はキリストです。一人ひとりが、一人ひとりの木であるイエスに、枝としてしっかりとつながっている必要があります。そのとき、イエスご自身が、わたしたちと共に働いてくださいます。」

訃報

仙台教区司祭

ガブリエル・アドロファ

今野 東志男

2月18日18時45分

光が丘スーパースター病院にて帰天

1942・10・7 桃生群飯野川町

(現石巻市)に生まれる

1977・9・15 司祭叙階

1978・1979 金ヶ瀬カトリック保育園園長

1998・2008 秋川神原(信徒修行所)

2009・2・18 帰天(66歳)

塩と光

「弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはつきりとお示しになった」(マルコ16・20)。教会は、宣教共同体です。福音を宣べ伝えるためにあるのです。▼この本来的な使命を遂行してこそ、共同体が育てられます。それは、派遣された共同体として、全世界に向けて開かれていきます。決して内輪向きの閉鎖集団になつてはなりません。それは、神と人類の一致のしるししか道具となることです。

▼共同体は仲良しグループや、派閥をつくることではありません。福音を宣べ伝えるという使命を共有する者同士が、いのちのこぼれといのちのパンを分け合うことによって生まれる交わりと一致を体験することです。

この交わりと一致の中心はキリストです。一人ひとりが、一人ひとりの木であるイエスに、枝としてしっかりとつながっている必要があります。そのとき、イエスご自身が、わたしたちと共に働いてくださいます。」

(博)

活きいきした共同体作りを求めて

第7回 教区活性化のための研修会

仙台教区宣教師牧評議会の提言により、2008年度の教区活性化のための研修会が、各県の信徒連絡協議会主催で開催された。今回は、各県ともに「小教区共同体作り」をテーマに、平賀司教の講演Ⅱ、2ページ参照Ⅱを聞き、小グループでの分かち合いを行う形で実施された。

【福島県】

2008年11月16日(日)、カトリック郡山教会で開催、参加55人。例年は100名前後の出席があるが当日は、葬式や教会総会等があり少なかつた。

「活性化研修会」の名称は堅い感じがするが、教区、小教区を生き生きと元気にするためにどうしたら良いかを考え、個々の信徒が自分の信仰また所属の教会を見つめ直す良い機会を得られた。(金子力)

【宮城県】

2月15日(日)、元寺小路教会で開催。106名が参加。講演後10グループに分かれて分かち合いを行い、以下のような意見が出された。



ある。家庭でしっかり信仰を伝えることが大切である。

＊教会の中によりよい人間関係を築くためには話し合いが必要。

＊意見や考えの違いを乗り越えて、キリストを中心に集まっていることを意識して一致に向かう。

＊転勤などで、教会を移ったとき、自分の居場所がない。その教会のメンバーは仲が良くても、新人を受け入れる態勢が出来ていなければならぬ。

＊子供や青年たちを大切にする教会でありたい。(岩井)

【岩手県】

2月11日(水・建国記念日)、盛岡四ツ家教会で行われた。

今回は、新たな試みとして、司祭が参加できるよう主日を避けて実施したため、県内各教会から7名の司祭が参加された。また、本県の活性化研修会は、今まで分科会を行わず、講話を聴くだけで終わっていたが、今回は分科会を実施した。県連絡協議会の会議でも、「分科会は苦手だ」「分科会



＊信仰共同体の核は家庭で

があるなら参加したくない」などの声があるということ、分科会を持たなかったが、今回のテーマ『信仰共同体作り』の一つの大きなポイントである「自分も話してよい、自由に話せる、聞いてもらえる」の実践のため、敢えて分科会を取り入れることになった。開催案内を出し参加者名簿が届くまで、果たして何人の参加者があるか、極端に少なかつたらどうしようかと危惧していたが、分科会参加者は94名で、前回に比べ2割ほどの減少にとどまった。10班に分かれて行った分科会には、司祭も加わり活発な発言がなされた。



参加者の帰路に就く清々しい顔が、今回の研修会の成功を物語っているようであった。

平賀司教の「私たちの生き方が『キリスト中心』となつていますか」という言葉は少々耳が痛かつた。(盛岡志家教会・飯塚 豊)

【青森県】

2008年11月9日(日) 青森本町教会で開催。参加約50人
2008年11月30日(日) 八戸塩町教会 参加約50人

キリスト教一致祈祷集会

教派を超えて、キリスト教の一致を求める祈祷集会が、今年も各地で行われた。◆盛岡四ツ家教会では、1月20日(火) 19時から開催された集会にはカトリック側から四ツ家教会、志家教会、上堂教会の3教会から信者27名、プロテスタント側からは9教会の信者37名、計12教会、64名が参加した。

◆仙台では毎年1月に仙台キリスト教連合が主催する一致のための催しが開かれている。今年も1月1日(木) 午後2時から元寺小路教会で元旦の新年合同礼拝が行われ、120名余りの参加者が日本福音ルーテル教会杉山昭男牧師の奨励に耳を傾けた。

ミゲル神父の司式で「一致していない状態と、和解の使者となることができないことに赦しを乞い、キリストにおける完全な一致へ至れるように」と祈った。翌週の27日19時から日本基督教団盛岡松園教会で開催され、ほぼ同じ程度の参加者があった。教会の駐車場から玄関まで雪の中に灯されたロウソクの温かい炎が歩道を照らしていた。女性の牧師の司式で「信仰における姉妹兄弟として、十字架の力による和解のしるしとなることを望んで、集まったわたしたちを祝福しお守りくださるよう」と祈りをささげた。

1月11日(日) 午後2時からカトリック畳屋丁教会で第1回キリスト教一致祈祷会が開かれた。参加者52名。奨励は日本基督教団仙台東一番町教会保科隆牧師。カトリック教会の役員が準備の打ち合せで馴染みのないプロテスタント教会を訪れ、青年たちが元気に集会を開いていたことに驚いたという。その青年たちが11日の祈祷集会に大挙して畳屋丁教会を訪れ、青年らしい好奇心でカトリックの伝統を吸収していた。

集会の後、両教会でお茶と菓子で豊かな一時を過ごし、伝統の違いはあってもキリストにつながっている一体感を感じる集いになった。(湯口)



1月18日(日)は午後2時からプロテスタントの仙台青葉荘教会で65名が参加。奨励は仙台中央地区の渡辺彰宏師「写真」。プロテスタントとカトリックの信者たちが一つ所に集い、唯一の主を賛美する貴重なひとときを過ごした。(高梨)

講演要旨

「パウロにとって

福音とは、宣教とは なにか」

講師 聖パウロ修道会 鈴木信一師

パウロ年の1月25日(日)、「聖パウロの回心」の祝日に、仙台中央地区では「パウロにとって 福音とは、宣教とは なにか」と題する講演会が、聖パウロ修道会の鈴木信一師を講師に、元寺小路教会において午後2時から開かれました。主催は、仙台中央地区教会運営委員会、150余名が参加。要旨は以下の通り。

エルサレムからローマまでの

パウロの宣教旅行の地図を示しながら、これがパウロの世界、そして、パウロの活躍した時代は、パウロの回心した31年〜32年頃から、殉教した64年〜67年頃まで、とパウロ理解の基礎知識を押さえた上で、本題に入りました。

「福音とは」と言っても、「パウロにとって」という言葉が付い

神のはからいは限りなく：



川井 啓神父

(古川教会協力司祭

すべての人間

に、神の召命は訪れるといわれている。私の司祭職への道も、神秘的体験に起因したわけでもなく、叔父が神学校の夏休みに帰省したとき、私を膝に抱きサウロの回心などの話を面白くかつ分かりやすく話してくれたことが、心に興味をわかせ、知らないうちに

だこと」とあるが、これも大切なことで、イエスの死は、私たちとは関係ないといえないことなのです。

「聖書に書いてあるとおり」とは、たまたまイエスが復活なさったということではなく、神様のご計画の中で復活があったのだよ、ということです。

この簡潔な福音をパウロは、自分なりに深めました。福音を深めたのは、パウロだけではなく、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの4人の福音記者も、福音を自分なりに深め、人々に伝えるために福音書を書きました。

パウロは使徒と言われますが、

司祭職へのルールが敷かれていたことから始まった。単細胞の腕白小僧は、教会にとつてあまり歓迎されない、迷惑至極な存在である身

招きにこたえて

23

をわきまえず、ある修道女に「お祈りください」とお願いしたところ、「私はあなたのために祈りしません」とつれない返事を頂戴し、また家族内から反対者があっても、な

しつ、召命の道を歩み続けている御仁である。穢(けがれ)のない生涯こそ真の長寿であることを肝に銘じ、召命の幕を閉じたい一念である。



「使徒」とは、「遣わされた者」という意味です。誰から遣わされたのか、誰に遣わされているのか、何のために遣わされているのか。

パウロにとつて、主イエスから、異邦人のために、福音を伝えるために遣わされました。

彼は、福音を深めると同時に、その福音を解釈、解説しました。彼は、福音は人々を解放するもの、ととらえていました。罪と死、律法からの解放です。

「ガラテヤの信徒への手紙(3・28)」では、人種、階級、性差からの解放を述べています。それは、パウロが福音をじつと見つめたからこそわかったことでした。当時の社会に生きていた人々にとつて、そこから解放される必要があったからです。

いろいろなものから解放された人々の群れがキリスト者です。福音は解放をもたらします。いろいろな問題に痛みを感じ、自分に行えることは何かを探ること、それが生きるということです。パウ

司教日程

3・4月

- 3・1 ① 千葉寺教会
- 2 ② 八戸聖ワルスラ学院高校
- 3 ③ 青森明の星高校
- 7 ④ 部落差別人権委・春季合宿
- 10 ⑤ 司教評議会・司教団役員会
- 19 ⑥ 仙台白百合女子大(仙台国際センター)
- 20 ⑦ 宣教司牧評議会定例会
- 22 ⑧ 花巻教会
- 24 ⑨ 学校法人理事会
- 26 ⑩ 教区財政問題評議会
- 30 ⑪ 教区司祭団月例会・責任役員会
- 31 ⑫ 部落差別人権委・事務局会議
- 4・1 ⑬ 日本カトリック神学院開校
- 8 ⑭ 聖水曜日(聖香油ミサ)
- 9 ⑮ 主の晩餐
- 10 ⑯ 主の受難
- 11 ⑰ 聖土曜日(復活徹夜祭)
- 12 ⑱ 復活の主日

口のように、自由人であることも奴隷であることも乗り越えて行こう、男であることも女であることも乗り越えていこう、これが福音の生き方です。パウロは勇敢に、与えられた状況の中でこういう方針を打ち出してきました。しかし、その行動基準には愛がありました。福音を信じる、福音によって希望をもつ、これは、即、愛をもつことです。

私たちも、同じ福音を受けています。努力しても変わらない自分、それでも愛に従って生きるのです。それが大切なことです。

【この講演を収録したCDを仙台聖パウロ書院で頒布。2枚一組350円】

「脳の健康・認知症について」

1月司祭月例会にて講演

日本カトリック医師会仙台支部（青森・岩手・宮城）は聖職者の方々の健康管理のお手伝いをすることが大切と考え、そのひとつとして健康に関する講演を企画し、昨年は「メタボリックシンドローム・がん」（講師・藤村重文）という題で行ったが、今年は1月26日（月）教区司祭団月例会において「脳の健康・認知症について」（講師・東北厚生年金病院副院長・神経内科主任部長 遠藤実）の講演をした。講師が所属する東北厚生年金病院は高次脳機能障害支援モデル事業拠点病院に認定を受けており、認知症の方々が多く受診されている。高次脳機能障害は、外見上正常人と変わりなく見えても記憶、注意、遂行機能、社会的行動などの認知障害をいう。講演では認知症の中で圧倒的に多いアルツハイマー病について多くの時間が割かれた。アルツハイマー病（50％）に次いで多いのが脳全体にレビー小体が沈着するびまん性レビー小体病（20％）でその次が脳血管性認知症である。アルツハイマー病は神経症状を伴わない進行性認知機能障害で、家族に伴われて受診されるときはその可能性が高い

ことや、診断のための検査法も整っていること、治療薬は進行を遅らせる

「アリセプト」が唯一であることや、基礎的なことはもちろん現在の研究状況などについても話された。「アルツハイマー病は進行性疾患のため介護度上昇に伴って入所施設が変わるが、終末期には療養型病院に入院するものの最期を迎えるときはどのような状況になるのか」ということが現在大きな問題のひとつである」ということが特に印象に残った。今後さらにこのような企画を続けたいと願っている。

（日本カトリック医師会

仙台支部長 藤村重文

パウロ年にちなみ勉強会

野田町教会

2008年6月28日から2009年6月29日までのパウロ年を記念して、1月18日（日）、上智大学（文学部人間学研究室）高山貞美師（聖心布教会司祭）をお呼びし、パウロの勉強会を開催した。写真。

今回は特別に普段の黙想会の講話よりも長い時間を取り、昼食をはさんで二部構成でお話をしていた。約4時間半の会を企画。同市の松木町教会にも案内をしたこともあり、当初の予想を超

告知板

◇「春の後藤寿庵豊大作祈願祭」◇

日時：2009年5月31日（日）午前10時
場所：岩手県奥州市水沢福原 寿庵廟前
カトリック水沢教会寿庵祭実行委員会

◇典礼研修会のご案内◇

講師：小田賢二氏
日程：5月16日 オルガン奏法勉強会（開始は午後）
5月17日 典礼聖歌歌唱指導
ミサ 9:30～10:30
歌唱指導 11:00～

場所：カトリック東仙台教会

共同体が一つになって歌える歌唱の方法を学びます。17日はできるだけ、ミサからご参加ください。詳細は4月下旬頃に東仙台教会（022-257-4348）にお問い合わせください。担当 京 早苗

◇2009年『祈りを深めるための研修会』

in 仙台のご案内◇

神との交わりを深め、神の望みを見出しながら自分の生き方を整えて、キリスト者として日常生活を生きることを目指す方々のために、祈りを体験しながら、同伴の助けを受けて、自分の祈りを確かなものにしていく研修会です。

内容：第1回 4月29日（水）祈りとは
第2回 7月20日（月）自然を素材に祈る
第3回 10月12日（月）生活を素材に祈る

時間：10:00 から 16:00まで

場所：仙台司教区センター（元寺小路教会会議室）

対象：毎日の生活を祈りによって整えたいと願う方。原則として全日程参加できる方。定員30名

会費：6,000円年3回（第1回の当日納入下さい。）

指導：イエズス会霊性センター「せせらぎ」スタッフ（代表者M.アモロス師）

申込：〒960-8112 福島県福島市花園町7-7

ノートルダム修道院Sr.津田和加子宛 郵送または、
Fax(024-534-3262)

問合せ：☎024-534-4412 夜7時～10時

締切：3月31日（火）＊定員になり次第締め切ります。

ときには深い洞察から、まさに

えた。

の回心を中心に、パウロの生い立ちや当時の状況、宣教の様子など、聖書を中心に詳しく説明。特に、まさにいのちがけの信仰のエネルギー源であったダマスコ体験に関しては、聖書に書かれているパウロの同行者の三つの記述を分析して、それぞれのパウロの回心の解釈を丁寧に解きほぐして説明した。



えて参加者は60名以上と大盛況の勉強会になった。高山師はパウロ

「ガザ攻撃を止め平和を」市民団体仙台でデモ行進

「目からウロコ」（使9・18）のお話を、そしてときには留学先であったイタリア仕込の（？）ユーモアを交え会場をおおいに盛り上げた。（野田町教会・稲葉）

集会の後、東一番町、青葉通りをデモ行進した。「カトリック正義と平和仙台協議会」も参加。カトリック関係者10人も「つらぬけ平和憲法」の垂れ幕を持つて参加した。写真。



また、同協議会は、2月15日と22日にパレスチナ・ガザ地区の緊急支援のため「街頭募金」をおこなった。募金額約12万円はカリタスジャパ

ンなど3団体に贈り食糧・医療支援や子供たちの支援に使われる。

各地から

▼東仙台教会

共に祝うクリスマス集い

主の御降誕を祝い、その意義を十分に理解し、神の子として、今何をなすべきかを考え、心のふれあいを通して、地域の人々と共にクリスマス



マスを祝う集いが2008年12月23日に、カトリック東仙台教会で約200名の参加者で行われた。

1988年からこの集いが開催されて20年になる。今年もあの人あの子に逢えた喜びで心の中はいっぱい。お客さま一人ひとりに当日のお友だち(担当ボランティア)が付き添い、みんなが輝いていた一日だった。(平岡 威)

▼八木山教会

クリスマス聖劇

八木山教会では毎年、12月24日、夜半のミサの前に土曜学校



の生徒たちによる聖劇をお披露目。この日、子どもたちは午後早い時間から真剣なハーパーを繰り返し、本番に向けて劇を完成させていく。今年は例年に比べ、練習の機会が限られていたが、練習時間の不足を子どもたちの工夫で補い、みごとに聖書の人物になりきっていた。低学年の子供たちは先生やリーダーたちのサポートを受け、本番では完璧なせりふ回しを披露。ぶっつけ本番とはいえ、神様のお導きと経験豊かな高学年の「ベテラン俳優」がリーダーシップを発揮して例年以上の出来栄となった。子どもたちが演じるヨセフ様、マリア様のひたむきな神様への信頼、そしてイエス様が私たちのためにマリア様を通してお越しになったことがいかに私たちにとって喜ばしいことを再認識することができた。涙腺が緩んだ大人たちも

何人か。子どもたちの演じる「生きたみことば」が2000年前の出来事を私たちに実感させ、感謝の気持ちと大きな喜びを持つて、ミサにあずかることができた。(早坂和人)

▼西仙台教会

ユニークなクリスマスミサ



クリスマスイブのミサに地域で地道に活動しているクラシックの弦楽グループ・アンサンブルM K(代表佐々木栄一氏)が参加。写真。同グループはアマチュアの弦楽アンサンブルで、元

大学教授や会社員・音楽の先生などで構成。一昨年の秋、演奏会会場として当教会をお貸ししたのが縁となり今回の事が実現した。

バイオリン2名チェロ2名の全部で4名の編成で、入祭の歌、奉納の歌、聖体拝領時の歌、閉祭の歌の4曲を聖歌に合わせて伴奏。楽しく豪華なクリスマスミサとなった。

マスミサとなった。

ミサの後、「あーエルサレム」をアンコールとして演奏。軽食パーティーでは、ホアン神父様がアンサンブルの方々に熱心にカトリックのことをお話し

▼八戸塩町教会

老人施設を訪問して

お隣の鮫教会の有志の方から始まったクリスマスの老人施設への歌の訪問は、今年は八戸塩町教会、鮫教会合同の聖歌隊で老人施設「音寿園」を訪問し、この日のために練習してきた聖歌も含め五曲歌わせて頂きました。最後の「月の砂漠」の時、車いすの男性が急に前にでられて一生懸命手振りですって下さったのにはみな感動し涙ぐんでいました。その後入



居者の方々と一緒にクリスマスケーキを頂きながら歓談いたしました。聖歌隊のメンバーの9割は70歳以上、後期高齢者の方々もいらつしやいます、音程の確かさと熱心さは若い方々には負けません。メンバー

の大半は女学生のころグレゴリア聖歌を歌われた方々で若いメンバーは教えてもらいながら受け継いでいきたいと思っています。またぜひひとご依頼を頂きこれからは折にふれ訪問させて頂くことになりました。現在「レジナチェリ」と「青い山脈」を猛練習中です。(滝沢恵美)

訃報

シスターアンナ 齊藤トミ子(94)
1914年7月26日 気仙沼市に生まれる。
1924年5月20日 カトリック気仙沼教会で受洗。
1946年5月24日 初誓願
1952年1月12日 終生誓願
2009年1月31日 帰天



Sr. 齊藤トミ子は、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の最初の日本人入会者として、第二次世界大戦中のさまざまな困難を、堅固な信仰で乗りこえ、日本における当修道会の礎となりました。

世の救いと世界平和を祈り続け、教会を愛し、ひたすら福音宣教に捧げた63年にわたる奉獻生活でした。

活動紹介

カトリック仙台教区病者・障がい者等団体連合会

本会（大島喜四郎会長）は、毎年現代社会の課題（時のしるし）などをテーマに研修会を開催している。

2008年度は、10月26日（日）元寺小路教会で、「心の病とキリストの思い」あなたの信仰があなたを救った」をテーマに東京教区ガリラヤの家所属で、障がいを持つ小宇佐敬二神父を講師に迎えて開催された写真。

開会のあいさつで平賀徹夫司教は、「心の病をもたれる人と仲良しになり理解したい。トビト記4・5には人からされた

私の気分転換

鮫町教会 畠山洋子

はて、私に気分転換はあるのかしら？と思いました。いつも仕事に追いかけて

ある聖ウルスラ修道院の隣のSr.篠崎の手芸教室です。入口のドアを開けたとき、

くないことはしてはならない、と書かれています。が、イエスの教えはさらに進んで人からしてもらいたいことを人にしなさいと言われている。

何をしてもし



神父（石巻教会）は、多様化されている教会にあって、受け入れること、優しく理解することの大切さについて話された。

小宇佐神父は、マタイ5章の山上の説教を主体に講演。心の貧しい人々は幸いであるといわれているが、この文章は神が主語になっている。

神は、ありとあらゆる病氣、不治の病と言われるてんかん、中風、ハンセン病、精神病などの病をもっている最も神を必要とする人が神殿から排除されていた現実の中にあつて、イエスは「なんと幸せなこと」と言っておられる。

また、地の塩、世の光について、塩の多い土地は、植物も生えない価値のない土地であり、山のうえにある家の光は目だつて攻撃目標になる光である。しかし、それしか能力のないものは、その持ち味を発揮するしかない。当時無産階級は全体の95%で5%の有産階級に依存しなければ生きてゆけない存



新刊案内

典礼と秘跡のハンドブックI

著者 具正護／発行 教友社／定価 1600円＋税

本書は、2006年6月から2008年11月まで、『ゼーヘル』誌上に、「具神父の典礼シリーズ」として、連載されていたものを、加筆修正し、1冊にまとめたものです。

内容は7章に分かれており、1章は「ミサ」について。ミサでの最初の十字架のしるしから、開祭、ことばの典礼、感謝の典礼をミサの順を追って、最後の派遣の祝福までを、歴史的な歩みを踏まえて、その意味をわかりやすく伝えていきます。

2章は「ミサシリーズ総合」と題され、第二バチカン公会議によってもたらされた典礼の改革を中心に、「ミサは食事がいけにえか」「いけにえの神学」「日曜日はどんな日か」などについて説明されています。

3章では「典礼実践の指針」として、典礼の法規や総則を踏まえ、典礼奉仕者、司祭司式者、ミサで使う用品など、具体的に大切な点が押さえられています。

「典礼暦の黙想」と題する6章では、主に聖人や祝日に関する黙想が紹介され、7章では「入信の秘跡」洗礼」が取り扱われています。

5章の「信徒からの質問に答えて」だけでなく、本書の各章から、典礼について疑問に感じていることが水解していくことでしよう。本書の第II、第IIIが期待されます。

典礼奉仕者だけでなく、すべての信者のみなさんが興味を持たれることでしよう。

（釜石教会・小野寺 哲）

仙台教区 2007年度 決算概要 -その3-

今回は、「施設整備協力制度会計」「司祭召命活動会計」「海外宣教基金」の決算について概況を報告いたします。

○施設整備協力制度会計収支 2007.4.1～2008.3.31

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
1. 献金収入	8,068	1. 事務費	100
小教区	(8,068)	2. 援助金	500
2. 教区本部会計より繰入	3,000	3. 献金返金支出	1,400
3. 受取利息	173	4. 財務支出	1,500
4. 財務収入	3,053	5. 次年度支払資金へ繰入	10,794
合 計	14,294	合 計	14,294

次年度繰越残高 94,185千円

- 十数年前の調査では、仙台司教区の9割の教会は何らかの改修の必要に迫られている状態であったが、大半の教会は、自教会単独では資金面で困難な状態におかれていた。
 その中で教区内での協力態勢を整える必要があり、種々の検討を重ねて本制度が発足した。
 - 要綱の目的には次のように記されている。「カトリック仙台司教区の各教会が福音の精神に基づいて相互に協力し、小規模な教会の改修工事等を円滑に進めるなど、教会施設の整備・充実に寄与することを目的とする。」
 - 財源の分担と事業の対象先は仙台司教区内のすべての教会となる。
 - 財源の分担
 - 各教会は ①維持費収入年額の7%に相当する金額、あるいは②維持費納入者1人当たり 月額200円を目安に算定した1ヶ年分の金額、のいずれかを負担する。
 - 教区本部からの拠出金300万円
 イ+ロで毎年度1000万円調達する。
 - 事業
 - 改修工事等に要する資金の援助(小規模教会に対して:1件150万円を上限)
 - 改修工事等に要する資金の融資(教区内全ての教会に:1件350万円を上限)
- ◎詳細は各県の委員にお尋ねになるか又は制度要綱をご覧ください。

○司祭召命活動会計収支 2007.4.1～2008.3.31

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
1. 司祭召命活動献金	7,162	1. 養成費	770
小教区	(6,797)	2. 司祭召命活動費	41
修道院	(365)	3. 教皇庁援助事業献金	120
2. 宣教地司祭育成献金	703	4. 事務費	131
3. 教区司祭団拠出金	500	5. 基金へ繰入	7,469
4. 受取利息	166		
合 計	8,531	合 計	8,531

次年度繰越残高 55,615千円

神学生養成の費用と、今年の4月から新しくスタートする日本カトリック神学院への負担金がこの会計から支出される。

○仙台教区海外宣教基金会計収支 2007.4.1～2008.3.31

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
1. 海外宣教基金献金	929	1. 援助費	0
小教区	(564)	2. 基金へ繰入	972
修道院	(365)		
2. 受取利息	43		
合 計	972	合 計	972

次年度繰越残高 14,467千円

この基金は、教区内から海外での宣教のために派遣される司祭、修道者、信徒の方々への支援に用いられます。

◎「カトリック仙台司教区」とは

- 第一回目で述べましたが、「カトリック仙台司教区」は、日本の法律上、宗教法人法による「宗教法人」であります。肩書きに「宗教法人」とは付いていませんが、仙台北務局に法人名「カトリック仙台司教区」と登記されております。

当然のことながら、「カトリック新教会法典」に基づいて規定・運営されていますが、日本の法律上は宗教法人法に従っております。

『宗教法人法』上の宗教法人になるには、下記要件を満たして現に活動している団体である必要があります。

- ① 教義を広める
- ② 儀式行事を行う
- ③ 信者を教化育成する
- ④ 礼拝の施設を備える

また、宗教法人を運営する根本原則を文章化したもの「規則」が必要となります。

これに基づいて運営されます。(会社で言えば定款)

「規則」は所轄庁である文部科学省に届け出て認証を受ける必要があります。

2. 「カトリック仙台司教区」の規則では

目的～この法人は“救世主イエス・キリストの啓示に基づき 唯一、聖、公、使徒承伝をその特徴とするカトリックの教義を広め、儀式行事を行い、信者を教化育成することを目的とし”、その目的を達成するために小教区教会を包括するほか、必要な業務及び事業を行う。

となっております。

宣教地区の範囲 ～「宮城県、青森県、岩手県、福島県とする」と定めています。

信者の定義 ～ 仙台司教区の信者とは

○カトリック教会の洗礼を受けた者及び他教派で洗礼を受けた後カトリック教会に受け入れられた者で

○本規定で定められた4県内の教会に所属し

○毎週日曜日と守るべき祝日に原則としてミサに参加し

○かつ、応分の教会維持費を負担する者をいう。

と定義されています。

会計年度～毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(会計補佐 小守林新策)